

## 『神と人との平和の回復』 ルカの福音書 2章1～20節 2016.12.25(クリスマス礼拝説教より)

『ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。』  
イザヤ書 9章6節

御子が誕生した世界で最初のクリスマスの日、天使たちが叫ぶ『地に平和があるように(ルカ 2:14)』！救い主が私たちに与える最大のものは「平和」！

❶**平和はどこに？** 人類の歴史のほとんどが戦争！日常的にケンカ、憎しみ、無関心がある。◆教育が人を変えと言うが、命の尊さを教える教育の現場でいじめが無くならない。神は、全ての人に優しさや赦しを与えられたが、極めて自己中心的。M.テレサは、神の愛によって創られた私たちが、愛し愛されるために生きていることを「いつでも覚えていられるならば、戦争も暴力も憎しみもこの世からなくなる…それは美しく、簡単」と語ったが、人は愛を忘れる。ここに罪の本質がある！誰にでも笑顔でありたいのに出来ないジレンマを抱える私たちに天使が告げた！『全ての人に／素晴らしい喜びの知らせ／あなたの方のための救い主が生まれた！』御子の目的は、私たちが失った『平和の回復』。❷**平和の君が来られた！**「平和」とは「和解」。「仲直りして、互いに笑顔になること」。まずは「神」と和解！『私たちはみな羊のようにさまよい、おのおの自分勝手な道に向かって行った(イザヤ 53:6)』。創り主の愛から離れた私たちは、日々疲れ、苛立ち、傷つけ合い、不満は募るばかり。『(平和が)御心にかなう人々に…』の『御心にかなう』とは、『(神の)お気に入り』つまり「愛されている」の意。自分は神に愛されていたと気づいた人は、神の笑みを仰ぎ、魂に安らぎが戻り、人と和解。平和の君は言う『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます…そうすればたましいに安らぎが来ます(マタイ 11:28～29)』。★『イエス様、私の心に来てください！あなたの愛を心に宿し、誰とも笑顔で向き合う関係を回復してください』と祈って欲しい！❸**和解の使者とされる！**羊飼いたちは、天使のお告げを聞き、幼子を捜し当て、全部本当だったと神を讃美し、その平和を胸に、元の辛い現実に戻った！この羊飼いは、闇の世に生きるクリスチャンの姿！『私たちは、平和の君について聞いた！出会った！全部本当だった！』と伝える和解の使者となる！『平和をつくる者は幸い！その人たちは神の子どもと呼ばれる(マタイ 5:9)』。神は、平和を「愛する者」でなく「つくる者」は幸いと言われた！「つくる者」とは「調達する／行う／実を結ぶ」の意。平和の君と共に住み、心の安心を守られている者が、それを知らず、拒否的な人たちに、『平和ってこれだよ！持ってきたよ！』と伝えること。◆あんな人を赦すなんて有り得ない！仲良く笑顔など絶対無理と思う…だからこそ平和の君が必要なのでは？

★イエス様はあなたに、誰との和解を求められる？ 苦手なあの人と笑顔を回復するためにあなたにできることは何？